



特別支援学校技能検定 プレ検定(清掃)



特別支援学校技能プレ検定（福岡市ブロック）が令和元年12月10日博多高等学園の体育館にて行われました。検定種目はテーブル拭き、自在ぼうき、水モップの3種目。初級・中級・上級がありますが、今回は各種目上級のみ1人一種目のエントリーで、高等部生徒1年～3年生39名が挑みました。参加した生徒は初めての場所での検定で大変緊張した様子でしたが、どの学校の生徒も練習の成果をしっかりと発揮していました。

審査は福岡県ビルメンテナンス協会の方にお願ひし、それぞれの種目ごとに定めている作業時間・評価項目について出来ているかどうかプロの目で審査をしていただきました。

清掃技能検定種目

- ・ テーブル拭き 12名参加
- ・ 自在ぼうき 9名参加
- ・ 水モップ 18名参加

当日の流れ

- 9:00 受付
- 9:30 開会式
- 9:50 検定及び評価
- 11:40 閉会式
結果発表
認定書授与
総括（講評）
- 12:00 終了



テーブル拭きのようす

タオルを、野球バットを握るようにタテに絞れているかチェックします。



テーブルのふちを拭く時は手首の向きに気を付けます。



自在ぼうきのようす

掃き残しがないように重ねながら掃き、ごみを一か所に集めて塵取りでとります。



水モップの検定会場の様子



作業表示板



作業を開始する前に設置しま



水モップのようす



モップの糸が机の脚、壁につかないようにモップを押えながら拭きます。

清掃技能検定は4m四方の部屋を想定し、テーブル・床清掃を行うもので、作業服の身だしなみは十分できているか、道具を正しく扱っているか、入退室の挨拶ができていないか、効率のよい清掃手順で丁寧に作業ができていないか、などのチェック項目をクリアすることで合格となります。

閉会式で福岡ビルメンテナンス協会の方より総括をいただきました。「全体として受験生に緊張は見られたがよくできていた。」との評価をいただきました。また各種目ごと、検定試験で気づいたことを挙げていただきました。

～ 今回の検定での注意点 ～

- ◆ 自在ぼうき ほうきを持つ時、上側の手の脇を締めて持つようにしてほしい。
- ◆ テーブル拭き 水拭きのタオルはよく絞ること。タオルを手で上からしっかり押しながら机を拭く。
- ◆ 水モップ モップの返しは3～5回。モップの柄の長さを調整し、きちんと締める。

今回の検定では福岡県ビルメンテナンス協会の方から全員合格の判定を頂きました。各学校はこの検定に向けて練習をしてきました。認定証を受け取った生徒たちはとても嬉しそうな様子で、「検定を通して生徒たちの清掃技術は向上し、合格することで大きな自信をつけることができました。」と特別支援学校教諭も感想を述べていました。今後、各種目の初級・中級の試験を各特別支援学校で実施するため、生徒は合格を目指し練習をしている所です。

令和2年度からは本格実施の予定です。この技能検定を通して就労に必要な知識・技能・態度を身につけ、就労に対する意欲・自信が高まることが期待されます。



令和元年度 障がい者就労支援セミナー

「障がい者が活躍できる福岡」～自分らしく生きる！働く！～

令和元年11月15日に行われた「障がい者就労支援セミナー」は、「障がい者が活躍できる福岡」～自分らしく生きる！働く！～というテーマのもと、福岡市障がい者就労支援センター主催・発達教育センター後援で開催しました。当日は企業担当者や支援機関、保護者、教員や行政関係者など125名の参加がありました。

講演会では、特別支援教育などの取材・執筆を多数行っている教育ジャーナリストの品川裕香先生に、先生が関わってきた多数の事例やエビデンス（科学的根拠）から具体的にお話をいただきました。

事例報告では、高校を卒業後、就労移行支援事業所の利用を経て特例子会社に就職した事例について当事者と会社の方及びジョブコーチからお話をいただきました。当事者の保護者は「できないことより、今日できる事に目をむけて伸ばす」という事で就労に取り組んだということがとても印象的でした。

内容

第1部 講演会

『働くために必要なこと

～将来、社会不適應にならないために～』

講師 品川 裕香先生（教育ジャーナリスト）

第2部 事例報告 「自分を信じ続ける」

発表者 当事者（特例子会社勤務）

会社担当者（特例子会社）

福岡市障がい者就労支援センター



特別支援学校生徒による「技能見学会」 及び企業と教職員との「交流会」

会場：福岡県立太宰府特別支援学校

令和2年1月24日、会場校の特別支援学校高等部生徒が、日頃学習し、訓練している職業技能を企業の皆様の前でアピールする「技能見学会」と、県内の教職員と企業の皆様との「交流会」が福岡県立太宰府特別支援学校にて開催され、企業関係者55名、支援機関14名、学校関係者28名の参加がありました。

■■プログラム■■

9:30～

・技能見学会

校内の作業部屋にて、作業の様子を見学（紙工、清掃、陶芸、農園芸、食品・縫製など）

・交流会（学校作品の販売会）

教職員と企業の皆様との意見交換・情報交換

開催校である太宰府特別支援学校の学校紹介の後、参加者は4つのグループに分かれて、校内の作業の様子を見学しました。企業・事業所関係の方々も生徒の作業の様子を熱心に見学され、担当教員や生徒に質問等をされていました。交流会では福岡県内14校の特別支援学校関係者と支援機関・企業、また支援機関・企業同士の歓談、情報交換が行われました。参加者からは「たくさんの学校と交流ができた。今後の採用につなげたい。」などの感想が寄せられ、障がい者雇用の理解促進、人材確保のネットワークづくりに役立てていただけたのではないかと思います。



令和元年度 特別支援学校を対象とした実習のための事業所面談会 が開催されました

主催：福岡労働局，福岡地区公共職業安定所，福岡県，福岡市教育委員会

令和2年2月10日，福岡商工会議所（博多区博多駅前2丁目）で特別支援学校生徒の実習の受入れを予定している企業との面談会が行われました。今年度は13の事業所と福岡市立特別支援学校からは1年生を中心に18名の生徒が参加しました。生徒にとって実際の職場での実習が，企業に就労することへの理解と就職への動機づけに大きな効果があります。事業所にとっては職場実習期間中，障がいがある生徒の働きぶりを直接見ることができ，障がいのある方の新たな職域の開拓や，雇用管理の見直しの一助となることが期待されます。

参加事業所の主な実習内容

- ・ 洗車，車内清掃
- ・ 店舗清掃・ポスター発送業務
- ・ 事務補助（PC作業含む）
- ・ 警備関係（座学を受けた後）
- ・ 福祉施設内清掃，配膳等
（介護員の補助業務）
- ・ 総菜製造の補助業務
- ・ 商品の品出し，倉庫内作業
- ・ 調理補助，食器洗浄 など

当日は事業所ごとにブースが設けられ，個人・集団面接が行われました。面接担当者からは仕事への意欲などを確認するための質問がされ，生徒は緊張した面持ちで一生懸命に答えていました。このような面接経験は，生徒が就労をイメージするために貴重な体験です。また“特別支援学校とつながりがない”という企業の皆様も，特別支援学校の生徒たちの様子を見ることができ実際に障がい者雇用につながった事例もあり人材確保の場となっています。

今回の面接の結果を受け，来年度以降生徒は実習に臨むことになります。



障がい者雇用ガイドブック 「実際の現場で活用できるガイドブック vol.1」

障がい者雇用の為のノウハウを詰めた「実際の現場で活用できるガイドブック vol.1」を「夢ふくおかネットワーク」企業部会で作成いたしました。内容は障がい者を採用するまでのステップについて・雇用に関するQ&Aとなっております。障がい者の雇用は近年いろいろな職種への広がりが見られます。障がい者雇用をお考えの企業だけではなく，障いのある児童・生徒の保護者の方にもご覧いただき，就労へ向けての家庭支援の取組みに活かしていただけたらと思います。発達教育センターのホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。



「夢ふくおかネットワーク」企業部会とは・・・福岡市発達教育センターを事務局として行政，企業，学校関係，保護者，関係機関，学識経験者と連携し，福岡市立特別支援学校高等部生徒の卒業後の就労を促進する活動を行っています。その下部組織として企業の方をメンバーとした企業部会を設置し，本ガイドブックを作成しています。

福岡市教育委員会 発達教育センター

福岡市中央区地行浜2丁目1-6

TEL 092-845-0015 FAX 092-845-0025

E-mail yume_network@city.fukuoka.lg.jp

HP <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/>

「夢だより」についてのご感想，ご意見などをお寄せください。

※左記参照

